

「生き抜く力」を育む保小中一貫教育

「日南町の英語教育」

内閣府による分析では、現状の出生率で人口が推移していくと、今から40年後、2060年頃には総人口は9千万人を割って8,700万人ほどになり、2100年頃には5千万人を割ると予想されています。これからの日本について考えたとき、間違いなく言えるのは、ますます国際化が進み、外国人と触れる機会が増えていくということです。



こうした社会変化を踏まえ、新しい学習指導要領では、外国語教育がさらに重要視されています。具体的には、小学校3・4年生で外国語活動が導入され、5・6年生は外国語科となります。また、中学校では高校で扱っていた学習内容が一部前倒しされ、語数も増加することとなりました。現在はその移行期間に当たりますが、小学校では昨年度から3・4年生で外国語活動を始め、先行実施に取り組んでいます。

日南町では、これまでも英語教育に力を入れてきました。古くはスコッツバレーとの交流に始まり、現在はシアトルへの小中学生海外派遣やシアトルの中学生の受け入れによる海外交流事業、京

大留学生との交流、中学生の英語検定補助事業、小中学校へのALT配置が実施されています。シアトルへの海外派遣はこれまでの4年間、毎年10名程度の小中学生が参加してきました。また、今年度も7月3日（水）から5日（金）の3日間、シアトルの中学生が来町し、4日（木）には日南小・中学校を訪問して授業体験などの交流を行う予定です。さらに、中学生は年1回、全員が英語検定を受験することとなっており、中1は5級、中2は4級、中3は3級合格を目指しています。

さて、これらの取り組みに大きな力を発揮しているのがALTですが、現在のALTのクラーク先生が7月で任期を終えられ、アメリカに帰られることとなりました。クラーク先生には、平成29年7月より2年間に渡ってALTとして小中学生の英語教育に尽力していただきました。多くの小中学生がクラーク先生との学習を通して英語への興味関心を高めたり、英語でのコミュニケーションに慣れ、自信が持てるようになったりしました。



クラーク先生、2年間ありがとうございました。小中学生のみなさん、帰国されるまでの間に、クラーク先生とたくさん話してくださいね。

にちなん子ども応援隊だより No. 74



先日、川崎で凄惨な事件が起きました。そこで今回は日南町の登下校の様子をお知らせします。

他の市町村に行かれて、小学校の登下校の様子を見られたことがありますか？たくさんのボランティアさんが見守られている地域があります。

日南町では、生山の駐在さんやボランティアさん、学校の先生がパセオの前で見守ってくださっていますが、毎日とはいかない状況にあります。

川崎では見守りの保護者がいるにも関わらず事件が起ってしまったが、大抵の犯罪を侵す人は見守りの大人がいると嫌う傾向にあるそうです。また、犯罪を侵す人は下見をするそうですが、その際、挨拶をよくする地域では顔を見られると思い、そういう場所を嫌がるのだそうです。

そこで、小学生・中学生を見かけられたら、せ

ひ声掛けをしていただけませんか？「おはよう、いってらっしゃい。」「おかえり、さようなら。」こんな風に挨拶や声かけをしていただくことも、子どもたちの安全を守るための立派なボランティアです。日南町の小学生はシャイで挨拶ができなかったり、声が小さかったりします。いろいろな人と挨拶を交わすことで、よい挨拶ができるようになってほしいと思います。一方、中学生の挨拶する姿は素晴らしいですよ。ぜひ見に来てください。

身近な、できることからあなたも始めませんか？

さあ、Let's try together !!

連絡先 教育委員会 82-1118

コーディネーター携帯080-5232-7712

